

# 保育園・幼稚園時代より地域差が激しい学童保育 “小1の壁”と“小4の壁”はより切実に

育休明け、子供の病気で急に休まざるを得ないことも多い乳幼児時代を、がんばって乗り越えてきたワーキングマザーたちが次にぶつかるのが、いわゆる“小1”の壁。小学生ママたちの悩みを調べてみた。

## 仕事を続けようか、続けられるか… 47%のママが悩んだ

子供の小学校入学時に、仕事を続けるかどうかで、なんらかの不安・葛藤があった人は47.0%と半数近く。その理由や、仕事を続けるためにどんな対策をとったかをフリーアンサーで聞いたが、もっとも多かったのは、保育園のように長時間預かってもらえるところがないことからくる放課後対策。行政運営の学童保育やそれに類似するサービスも、地域によって、預かり時間などシステムがまち

まち。祖父母、ご近所、民間サービスと、ありとあらゆる手段を駆使する人もいれば、子供が小学生になってから、あえて短時間勤務やパートタイム勤務を選んだという人も。子供がある程度自立できるようになる2、3年生までの短い期間ではあるが、この時期のワーキングマザーを物理的にも精神的にも支援する策が望まれる。

## あなたにとっての“小1の壁”は？

・学区内に学童保育がなかったので必死で探し、車送り付きの学童に入ることができました。学童に近い学校へと急遽、越境させました (42歳 / 神奈川)

・子供に鍵を預けることへの不安がありました。ラッキーなことに、大阪市ではいきいき事業があって、放課後に学校で預かってくれるのでそれを利用して (38歳 / 大阪)

・育児のための短時間勤務で給料カット。仕事量も激減。明らかにキャリアアップは望めない、コース転換。でも今が正念場と気持ちを割り切り復職した (44歳 / 千葉)

・学童は、時間に間に合わないか迎えに行く前に退出させられてしまい、安全上不安だったので、民間学童保育を利用 (43歳 / 神奈川)

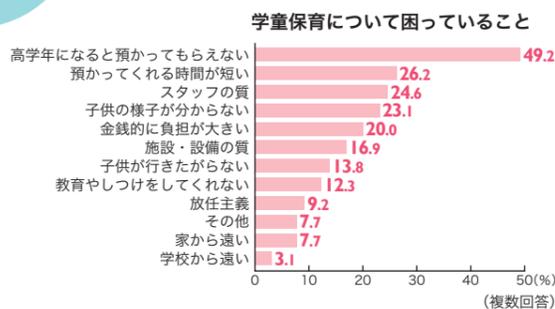
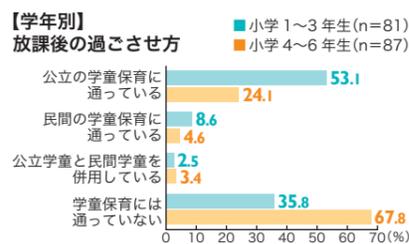
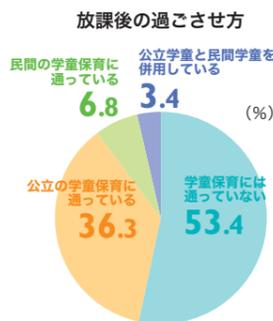
・小学校は保育園よりも帰宅時間も早く、子供会やPTAの役員も多いです。十分に関わってあげられないことで、子供が寂しい思いをするのではないかと不安 (34歳 / 宮城)

・子供の精神的フォローと勉強のフォロー、家事と仕事の両立ができるか不安でした。保育園は働いているお母さんばかりですが、小学校は違うので、専業主婦のお母さんと比べられ、子供に不満に思われないか心配でした (40歳 / 神奈川)

## 学童保育は3年生まで4年生からの過ごし方も課題

放課後をどのように過ごさせているかは、右のグラフの通り。学童保育の受け入れが3年生までの地域が多いことから塾通いや習い事を始める、また子供が行きたがらなくなることもあって、4年生以上になると学童保育を利用する子供はぐっと少なくなる。

公立、民間を問わず、学童保育について困っている点は、「高学年は預かってもらえない」が半数近くで、ここでさらに“小4の壁”にぶつかる。「預かり時間が短い」「スタッフの質」「子供の様子がわからない」と続き、やはり、保育園・幼稚園とのギャップが大きいようだ。

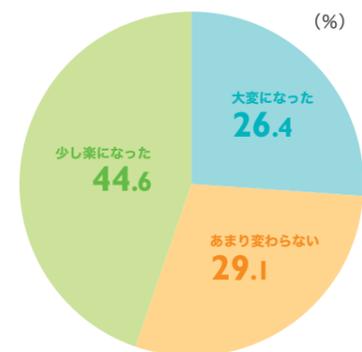


## 半数以上のママが、保育園時代とは違う、新たな負担を感じている

家庭と仕事の両立、その負担感の変化を聞いた。保育園・幼稚園時代と比べて「少し楽になった」という人は44.6%。その理由のほとんどが、「送り迎えが不要になった」「子供が成長して自分でできることが格段に増えた」。その時間を別の家事にあてることができ、気持ちにゆとりが生まれているようだ。

一方、「大変になった」26.4%の理由には、放課後の預かり時間の短さ、宿題や翌日の準備を見てあげなくてはいけない、平日の学校行事参加の負担をあげる人が多い。小学校入学を機に時短勤務制度が終了、学童保育が早く終わってしまうので残業ができない、小学校に入ってから勤務先に時短勤務を申請など、環境によって様々だが、保育園時代よりも働きにくさを感じているママが少なからずいることは確か。「あまり変わらない」と答えた29.1%も、楽になった反面、前述の新たな負担も挙げていることから、全体の半数以上は、小学校に入学してからの“大変さ”を感じているといえる。

子供が保育園・幼稚園時代と比べて、家庭と仕事の両立、あなたの気持ちに近いもの (%)



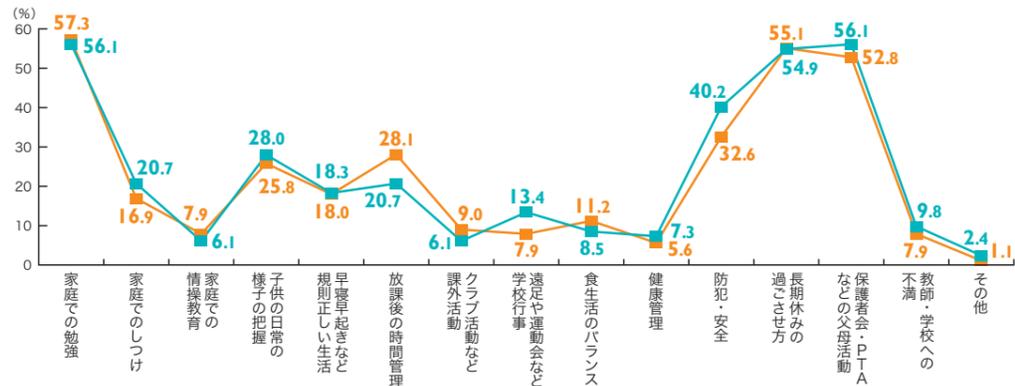
## 家庭での勉強、長期休み、父母活動が困っていることのトップ3

小学校に通うようになってから、働くママが困っていることを具体的に見てみよう。「家庭の勉強」「長期休みの過ごし方」「保護者会・PTAなどの父母活動」、この3つがいずれも50%を超えた。

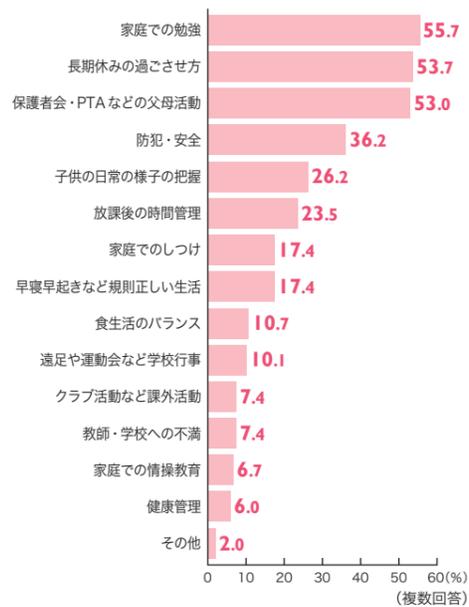
6Pでも紹介したように、学童保育に行かなくなったり、2~3年生になって一人で行動できるようになってくると、放課後の時間管理も兼ねて、習い事の数を増やしたり塾通いを始める子供も。

また、小学生ならではの悩みとして特徴的なのは、子供の日常の様子が把握できないと感じている母親が26.2%いること。「保育園時代は先生に聞けば普段の様子がよくわかったのですが、小学生になるとあちこちからかき集めて総合判断しないとけない」(39歳 / 神奈川) という声に象徴されている。

【学年別】育児の面で、保育園(幼稚園)の時に比べ、小学校に通うようになって新たに困っていることは？



小学校に通うようになって新たに困っていること



## 家庭・育児と仕事の両立、小学生になって変わった？

### 大変になった!

・預かり時間が保育園は20時までだったが学童は19時まで。残業ができなくなった (37歳 / 埼玉)

・成績や学校の生活態度など、成長するにつれ精神的な負担が大きい (44歳 / 東京)

・幼稚園までは「育児時間短縮勤務制度」を利用し、18時には家に帰れたが、1年生になって通常勤務に戻ってからは帰宅が19時半。それから夕飯・お風呂・お手紙や宿題チェックなど慌しく、子供が寝るまで自分の落ち着く時間がまったくない (45歳 / 埼玉)

・小学校の方が行事が多い。姉妹で違う学校なので、行事も2倍、役員も2倍 (39歳 / 東京)

### あまり変わらない

・送迎がなくなったこと、洗濯物(毎日の着替え、週末の布団カバー等)が少なくなったことはとてもとても楽になったが、小学生になり宿題を見たり毎日の持ち物を揃えたりと意外に手をかけなくてはならないことが多い。習い事の送り迎え、平日の学校行事参加の負担、スケジュール管理等々、忙しいことに変わりはない (45歳 / 東京)

### 少し楽になった!

・小学生になれば少なからず身の回りのことは自分で出来るようになるため、その時間を家事に回せる。朝忙しい時間などは特にそう感じた。洋服の着替えを手伝わなくても自分でできるなど、その時間はわずかでも、朝はとても貴重な時間 (37歳 / 千葉)

・保育園の送り迎えがなくなり、往復30分ずつの時間が使えるようになった (42歳 / 東京)

### HOW's View

#### 子どもの放課後事業に大人の目をサービス化?!

子どもの放課後を担う事業は、ますます発展するだろう。学童保育の場はさらに様々な広がるだろうし、見守りのサービスも必須だ。特に都会では、子ども同士で溜まれる場もたくさんあるし、ゲームなど誘惑も多い。働くママの一番の心配は、大人の目が行き届かないこと。ゲームメーカーや娯楽企業、通信企業などは、むしろ子どもの見守りをきちんと事業にするとも考えられるし、コンビニや商業施設も、そうした大人のスタッフを育てることも素晴らしいサービスになるだろう。